

女性活躍推進と海のカーボンニュートラル

水本伸子会員（元・株式会社IHI取締役 常務執行役員 元・総合海洋政策本部参与）

私がIHIに入社した頃は女性総合職を採用していなかったが、今は女性が働くことが普通になった。日本のジェンダーギャップ指数は先進国で最低。社会構造や政治分野が課題だと言われおり、世界に比べて変化が遅い。IHIでは女性管理職も多くなってきてはいるが、上司の意識、リーダー経験、仕事と家庭の両立など、様々な問題があり、管理職の女性比率7パーセント達成に向けた提案を具申して取り組んできたが、まだ目標に達していない。技術同友会のダイバーシティ推進委員会では、女性技術者登用・任用のベストプラクティスを調査したが、女性の理系への進学者数、産業界の採用数、育成体系やメンター、経営者の見識などの課題が浮き彫りになった。女性活躍推進では数値目標を持って登用の機会を与えることが特に重要だと思う。

カーボンニュートラルに話題を移す。エネルギー基本計画は、安全性、安定供給、経済効率性の向上、環境への適合を基本方針として、3年毎に見直している。私は、第4次基本計画の途中から第5次、現在の第6次の策定に関わってきた。第5次計画で2050年カーボンニュートラルに向けたグリーン成長戦略が策定され、成長が期待される分野が決められ、洋上風力、水素・アンモニア、船舶などに期待が向けられた。2021年、温暖化ガス26パーセント削減シナリオで計画を進めていたところ、46パーセント削減方針が出てきたのは本当に衝撃的だった。

今、ロシアのウクライナ侵攻など色々な事が起きて、エネルギー情勢が見通せない状況であるが、GXの実行計画を作って方向性を明確にしようとしている。エネルギーミックスについては、再エネ倍増と原子力拡大も挙げられ、洋上風力への期待が高まっている。世界6位のEEZを持つ日本では、沖合の浮体式風力発電の開発は非常に大きなポテンシャルがある。

2007年に、新たな海洋立国日本の実現を目指す海洋基本法が制定され、海洋基本計画がたてられた。私が参与として策定に関わった第3期海洋基本計画には、再エネ利用拡大、資源やエネルギーの確保、海洋エネルギーの利用の推進、港湾の省エネ化推進、船舶の省エネ技術開発などが明記されている。海洋の2050年カーボンニュートラルの取組を、プロジェクトチームを作って、海洋由来のエネルギー・資源の利用、海洋からの排出の削減、燃料・資源の海上輸送に焦点を当てて議論した。

海洋エネルギーの利用については洋上風力発電と潮流発電と海流発電の3分野。海洋からの排出削減に向けた取組に関しては、カーボンニュートラルポート、ゼロエミッション船と漁船、そして、燃料・資源の海上輸送は、水素と燃料アンモニアの海上輸送網構築をそれぞれ議論した。さらに、EEZでの浮体式洋上風力発電を行う場合の、海洋空間利用計画、ルール策定についても議論が行われた。

カーボンニュートラルポートに関連して、経済産業省の審議会では、化学産業のカーボンニュートラルを目指して、製造プロセスのカーボンニュートラル、石炭等の自家発電の燃料転換、トランジションファイナンスについて検討されている。沿岸に立地する石油化学コンビナートでは、燃料としての水素・アンモニアの輸入などカーボンニュートラルポートと、化学工業などの立地産業との連携が重要になっている。

日本は海に囲まれているのに海に目を向ける機会が少ないと感じている。私は、エネルギーと海洋の両方に関わったことで、海のカーボンニュートラルに課題意識を持った。海のカーボンニュートラルは、これからの日本の産業の成長と国際競争力強化のチャンスだと思っている。

(了)